

表紙のことば

写真と文：鈴木正美

春を告げる作物は？ といえばやはりタケノコ！ 名古屋から車で40分ほど走り、桑名市へ。



「トンガ」と呼ばれる^{くわ}鋤を、ほんの少し顔を出したかどうかの根元をめがけて、無言で振り下ろす堀田茂樹さん。コツコツコツという音が小気味よく竹林に響きます。

「竹の根の生え方を予想して硬い根を切り、土から掘り上げます。平場の^{ほじょう}圃場は管理がよければ早い時期に出て値段もいいんやけど、掘りにくくて腰にきますわ」そう話しながら堀田さんは立派なタケノコを土から掘り上げていきます。

タケノコは当日収穫・当日出荷。株切りや容量等の基準もJAの検査員が全量を厳しくチェックします。「JA検査は厳しいで。気をつけて丁寧に掘らんと」と堀田さん。「消費者の方あってのタケノコですから。品質を守らんと。皆さんの技術のおかげです」JAみえきた深谷支店の浅



井則康支店長はにっこりそう返します。こうして「桑名特産たけのこ」の品質が守られているのです。

竹林の管理にもなかなか気をつかいます。下草を刈りすぎないようにして湿度を保ったり、逆に日光や風が適度に当たるように伐採や刈り込みをしたり。「気温が高いだけではいけません。雨が降ると一齐に生えてくるんです」まさに雨後のタケノコ。堀田さんご一家のそよ風のような笑顔から春の喜びが伝わり幸せな気分になりました。

JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「変わるJA 広がる地域のきずな」をテーマに毎月Q & A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひご活用ください。

変わるJA 広がる地域のきずな

監修＝広島大学 助教 小林元

Q、JAの自己改革で組合員は何をすればいいの？

A、JAの運営参画の場や組合員アンケートを活用し、皆さんの声を届けましょう。

協同組合は組合員が出資し、運営に参画し、事業を利用する組織であり、JAの自己改革の主人公は組合員です。組合員のニーズが多様化しているなかで、改革を達成するには、どうすればJAがより良くなるかを考え、組合員の声をJAに届けることが必要です。JAでは組合員組織や支店協同活動、支店運営委員会など組合員の参画の「場」をつくり、組合員の意思反映・運営参画を進めています。農家組合員ならば青年部や生産部会、総代、女性であれば女性部、フレッシュミズなどの活動があります。

また、JAグループは、全国で全ての正准組合員を対象にアンケート調査を行っています。組合員によるJAの自己改革の評価を「見える化」することが目的です。組合員の皆さんをJA職員が訪問したら、わがJAの改革はどこまで進んでいるのか、わがJAの今後の運営はどうあるべきか、皆さんの声を届けましょう。

「アクティブ・メンバー」の拡大＝メンバーシップ強化

運営参画

理事、組合員組織代表、支店運営委員等としてJA運営に参画

意思反映

組合員組織、支店利用者懇談会等を通じてJA運営に意志反映



事業の複合利用 活動の複数・2段階参加

組合員組織活動、支店等の活動に複数・2段階参加
複合事業利用・事業量の拡大



耕そう、大地と地域の未来。